

有機質肥料の肥効予測システム

【露地畑土壤及び茶園土壤における県内各地での有機質肥料の肥効予測】

背景・目的

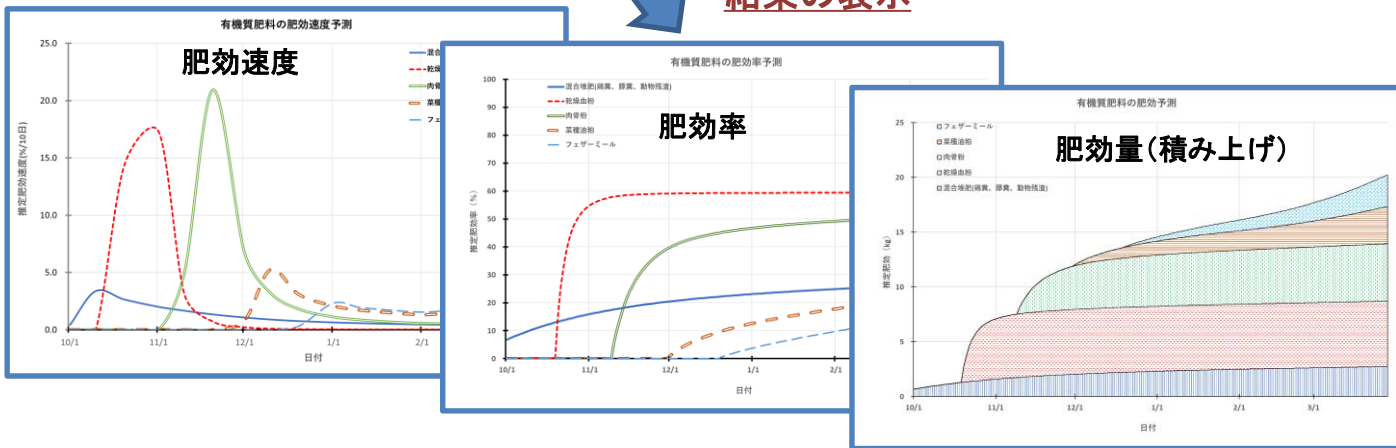
- 有機質肥料の利用が推進されるなか、有機質肥料の肥効予測は一般的には行われていません。
- 有機質肥料の肥効予測を行い、効果的な施肥の参考とします。

内容

- 有機質肥料の肥効予測を平均気温(気象庁平年値)を用いて地温を予測することで、県内各地での予測が可能になります。
- 肥効予測は、①使用する地区、②有機質肥料、③施肥窒素量(②で投入される窒素量)、④施肥時期の4項目を入力することで、肥効率、肥効量(折れ線、積み上げ)、肥効速度が同時に表示されます。

入力欄		①地区番号入力	②有機質肥料1	②有機質肥料2	②有機質肥料3	②有機質肥料4	②有機質肥料5	
①地区	必要項目 (4項目)の入力	① 1 宮崎	⑦ 混合堆肥(鶏糞、豚糞、動物残渣)	⑥ 鶏糞血粉	③ 肉骨粉	① 菜種油粕	④ フェザーミール	②肥料
		③施肥窒素量1	③施肥窒素量2	③施肥窒素量3	③施肥窒素量4	③施肥窒素量5	③施肥量	
		④施肥時期1	④施肥時期2	④施肥時期3	④施肥時期4	④施肥時期5	④施肥時期	
		⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g		
		⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g	⑩ 10g		

結果の表示



活用方法

- 施肥時期や有機質肥料の違いによる肥効の違いを可視化することができ、施肥時期や施肥する肥料の種類、施肥量等の検討に利用できます。

留意点

- 肥効予測は、土壤の水分状況が最大容水量の40~60%であることを想定しています。
- 有機質肥料の肥効は温度や土壤水分、微生物に左右されるので、気温や土壤水分、土壤の生物性によっては、この肥効予測と同様の肥効が得られない場合があります。
- 露地畑地土壤用と茶園土壤用の2種類があります。施設土壤、水田土壤には対応していません。